

2021(令和3)年度 中学部入試問題について

国府台女子学院中学部

1. 2020年度の問題分析

①推薦入試

平均点は52.7点。試験内容は、原則的には例年と同様に、難易取り混ぜた小問題（知識問題）と1000字以内の短めの読解問題（随想）を出題しました。ただし、読解問題は本文のあとに、3人の小学生の話し合いが続く設定で、全体としての文字量は前年の数倍にのぼる分量になりました。「超高齢社会」の問題を考えるものですが、「延命治療」に関わるグラフなどを読み解きながら、丁寧に選択肢を吟味しなければならないものもあり、時間が不足した受験生も多かったのではないかと思います。とはいえ、この読解問題の正答率は59.1%とまずまずの結果でした。一方、小問題（知識問題）の正答率はあまり芳しくなく（48.4%）、たとえば問一の漢字②③の問題、問七の外来語、問十四の『玉虫』色、問十八の「ひとひ」は正解がほとんど出ず、さらに問十七は「たくましく」と誤答したものが目立ちました。昨今の児童・生徒の語彙力や想像力の乏しさが如実に表れた結果であったように思われます。

②第1回入試

平均点は59.6点。問題の構成は例年どおりで、推薦入試と同様の小問集合を40点、長文問題（説明的文章）を60点として出題しました。小問集合の正答率は56.9%で、問九や問十一のような表現に関する問題で誤答が目立ちました。新聞や評論、少し古い時代の小説など多様な表現に日頃から親しんでおく必要があります。長文問題は、感性情報学に従事する女性研究者が青少年に向け、筆者の当該研究の動機や背景、研究方法、研究結果について述べた実務的な内容でした。文字量や情報量が多く、内容を的確に整理して読むことが求められるため、受験生にとってはやや難しく感じられたかもしれません。とはいえ、極端に正答率の低かった問題はなく、概ねの読解はできていたと感じます（正答率62.3%）。ただし、問八や問十一などは選択肢の吟味が困難だったようで不正解が目立ち、「適切なものもいくつか選ぶ」必要のある問十三も、完答正解としたためか正答率が低かったように思いました。また、本文中の語を書き抜いて答える問題で表記を誤るなど、不注意による失点も目立ちました。なるべく文章量の多い教材で練習を積み、時間配分を考えて、落ち着いて解答する習慣が身につくように努力してほしいと思います。

③第2回入試

平均点は53.8点。問題の構成、配点は第一回と同様です。小問集合は本校独自の出題形式であるためか、準備の不十分な答案も見受けられ、正答率は54.2%でした。なかでも、第一回同様に、問九や問十一などの、新聞や評論、少し古い時代の小説など多様な表現を目にする必要のある問題で苦戦した受験生が多かったようです。長文問題の正答率は53.5%でしたが、受験生と同年代の主人公が登場する人気作家の作品で、比較的読みやすかったものと思われる。しかし、内容を抽象化して解答を導き出す問題には苦手意識があるのか、自分の言葉で適切な語句を答える問七や、問いの傍線部とは遠く離れた箇所から抽象度の高い表現を見つける問十三などでは誤答もしくは空白が目立ちました。

2. 2021年度入試の傾向と対策

①全体の構成

近年、本学院独自のパターンで出題してきました。つまり、推薦入試（40分、100点）では小問集合のみ（短い文章題を含む）、第1回・第2回入試（50分、100点）では小問集合と長文問題1題という形です。

2021年度入試についても同じパターンで出題します。第1回・第2回入試の配点も同様で、小問集合が約40点、長文問題が約60点です。

②小問集合について

漢字・熟語、ことわざ・慣用句、新聞等でよく用いられる語句（外来語も含めて）の意味選びなどの知識問題や、正しい言葉の使い方、文法、短文作りなど語句に関する問題が中心です。また、「ヒントに従って考える力」をみる問題や、感性・想像力をはかる問題も出題したいと考えています。近年は漢字・熟語などの「基本中の基本」をマスターしていない受験生が目立つので、難問ばかり解くのではなく、まずは漢字力（意味を含めて）を鍛えてください。

推薦入試では、1000字程度の短い文章を材料にして、論理展開や心情を問うような問題も出題する方針です。ただし、そこから話を展開させていく場合もありますので、全体の文章量が少ないとは限りません。

③長文問題について

第1回・第2回入試とも1題だけです。問題文は少し長めになると思います。前年よりもさらに文字量が多くなることもご想定ください。説明的文章（評論など）か文学的文章（小説や随筆など）かのどちらかをあてはめて出題します。

長文問題は、「要するに何がどうだと言っているのか」「だれがどんなことをして、どう思っているのか」という骨格を頭の中で確認しながら読むことが大切です。大筋をきちんとつかめれば、とんでもない間違いはしません。多くの受験生が苦手な記述問題は、答えの中心となる語句や文が本文の中に必ずあるので、まず注意深くそれを見つけましょう。そして、問題が求めている内容や答え方の形に合わせるために、その中心語句をどう変えなければならないか、あるいはそのままでもよいかなどよく考えましょう。例年、主語と述語がきちんと対応していなかったり、要点は十分に捉えていても文末の答え方が不適切である記述解答を多く見かけます。また昨年度の第二回入試で見られたように、内容を抽象化して答える問題の練習をしておく必要もあるでしょう。語彙を豊富にし、言葉を自在に操ることができると良いですね。時間にはある程度の余裕があると思いますので、焦らず、ていねいに本文や設問を読んで答えてください。

なお、小問集合、長文問題とも、出題する漢字は小学校で学習するものを原則としますが、日常よく用いられるレベルのものについては、小学校で学習していないものを出題する場合があります。また、本文中の「ふりがな」についても、ある程度の読書習慣があれば当然読めるような常識的なものは、小学校の学習範囲以外でもつけられない場合があります。

国語力を高めるのは、やはり読書習慣です。語彙を増やすとともに、他者理解の姿勢を身につけるためにも良質な文章をたくさん読むよう心がけてください。

2020年度入試 国語 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①			○		◎	
	②			○			
	③				○		
	④			○		◎	
	⑤	○					
問二			○				
問三				○			
問四	①	○					
	②	○					
問五	①		○				
	②	○					
問六			○				
問七					○		
問八			○				
問九				○			
問十				○			
問十一				○			
問十二	①		○				
	②		○				
問十三	①		○			◎	
	②		○				
	③	○					
問十四					○		
問十五			○				
問十六					○		
問十七					○		
問十八					○		
問十九					○		
問二十	1		○				
	2	○					
	3			○			
	4			○			
	5	一		○			
		二		○			◎
	6			○			
	7	ア	○				
		イ		○			◎
		ウ		○			
		エ		○			
	8	オ		○			
		カ			○		

総合 52.7%

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①			○		◎	
	②	○					
	③			○			
	④	○					
	⑤			○			
問二				○			
問三			○				
問四				○			
問五				○			
一	問六		○				
	問七		○				
	問八	○					
	問九				○		
	問十		○				
	問十一				○		
	問十二	①	○				
		②	○				
		③	○				
	問十三				○		
二	問一	a	○				
		b		○		◎	
		c	○				
		d			○		
		e			○		
	問二	I	○				
		II	○				
	問三	A			○		
		B			○		◎
	問四			○			◎
	問五			○			
	問六		○				
	問七		○				
問八				○			
問九			○				
問十			○				
問十一				○			
問十二			○				
問十三				○		◎	

大問別	一	56.9%
	二	62.3%
総合		59.6%

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①			○			
	②			○		◎	
	③		○				
	④		○				
	⑤		○				
問二			○				
問三				○			
問四				○			
問五			○				
一	問六		○				
	問七			○			
	問八	○					
	問九				○		
	問十	○					
	問十一			○			
	問十二			○			
	問十三	○					
	問十四	○					
	二	問一	a		○		
b					○		◎
c				○			◎
d					○		◎
問二		①	○				
		②	○				
		⑦	○				
問三		○					
問四		○					
問五		○					
問六			○				
問七					○		
問八				○			
問九				○			
問十				○			
問十一				○			
問十二				○			
問十三					○		
問十四	①		○			◎	
	②			○			

大問別	一	54.2%
	二	53.5%
総合		53.8%

< 算 数 >

1. 2020年度の問題分析

①推薦入試

出題内容は大問5題の構成で、整数・小数・分数の四則混合計算問題、短い文章形式の計算穴埋め問題、解法の経過を考えさせる問題、図形を利用した計算問題、グラフから数値を読み取る問題に分かれています。最初の四則混合計算問題は正答率が他の問題よりも高く、ほとんどの受験生が得点しています。それ以降の問題では、特殊算を出題していますので、代表的な問題を繰り返し解き、理解度を高めておく必要があります。

平均点は52.8点。問1の四則混合計算問題は正答率が70%でした。問2の特殊算を使った一行問題は、(3)、(6)の正答率が低くなりました。(3)のカードを並べて数を作る問題は、百の位に0が当てはまらないことに気付かず解答してしまった人が多かったようです。(6)の原価・利益の問題については、特に非内定者の正答率が低かったです。状況を正しく把握できず、立式することができなかったことが一因ではないかと思えます。問3(1)の計算経過の穴埋め問題は、流水算の問題を出題しました。ウ、エで内定者、非内定者の正答率の差がつかまりました。速さと時間の比が逆比になるところでつまずいてしまったようです。(2)の記述問題には年齢算の問題を出題しましたが、途中式など全般的によく書けていたと思います。問4の図形問題は、(2)の正答率が低くなりました。平行線間の三角形の面積比や、相似な図形の面積比について理解ができているかどうかととてもはっきりしたように思います。問5のグラフ問題は、(1)は全体的に非常によくできており、(2)は内定者、非内定者の差が大きくなりました。

②第1回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は75.5点。問1の四則混合計算問題は高い正答率でした。問2の特殊算を使った一行問題についても良くできていましたが内定者の非内定者の差がついた問題もありました。(4)の時計算の問題は、計算がしづらい部分でもあるので、計算力の差が出たように思います。また(6)は、問題文をきちんと読み取り、自分でグラフを書くことができたかが問題を解くポイントになったと思います。問3の経過を見る問題については、記述問題も含めてよくできていたと思います。問4では、(3)の問題の正答率が低かったです。展開図の問題は、どのような図形になるか想像していくのが難しいと思います。組み立てるときに、長さが等しい部分を合わせることができるところに着目すると想像しやすかったかと思えます。問5のグラフ問題は、(2)以降の問題で、内定者と非内定者の差が大きくなりました。3つの点が同時に動く様子が、少しわかりづらかったようです。(4)の問題は、全体的に正答率が低くなりました。グラフがない部分でのそれぞれの動きをきちんと把握するのが難しかったようです。

③第2回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

第2回入試は平均点が55.8点。問2の(5)は、問題をきちんと把握できたかどうか差に表れたと思います。また(6)は、典型的なつるかめ算なのですが、問題文が長く、きちんと読んで立式することができなかった人もいたようです。問3の(1)の穴埋め問題に関しては、良くできていました。(2)は旅人算の問題でしたが、内定者と非内定者の差があったように感じます。問4の(2)は、正答率が低くなりました。半径×半径を、2つの直角二等辺三角形を組み合わせてできる正方形の面積から求めることに気付かなかった受験生も多かったようです。問5のグラフの問題は、全体的に内定者と非内定者の正答率の差が大きくなりました。問題文をきちんと読み、また、グラフから状況を読み取り整理することができるかできないかの差が大きかったかと思えます。

2. 2021年度入試の傾向と対策

2021年度入試については、昨年度と大きな変更はありません。出題については、すべての試験において同じ形式で行います。最初に四則混合計算を数問出題し、次に文章形式の計算穴埋め問題を出題します。解法の経過を見る問題については、2問用意し、1問は穴埋め問題、1問は計算過程を書かせる記述問題とします。図形、グラフといった問題も例年通り出題する予定です。対策としては、第一に基本的な計算力をつけることです。四則混合計算は確実に得点できるようにしてください。また、中学受験に必要な様々な特殊算について理解を深めてください。最初の計算と、特殊算の一行問題、途中経過を見る問題で、テスト全体の約50%を占めます。経過、図形、グラフなどの応用問題も大切ですが、それ以上に基礎的な部分に目を向けてほしいと思います。また、問題をきちんと読み、立式できるように練習しましょう。解法の経過を書く問題は、どのように考え、答えを導き出したのかを確認するためのものなので、考えを省略することなく、丁寧に書くことを意識すれば、正解にたどり着きます。図形問題については、円周率3.14などの小数を用いた計算で受験生間に差がつく傾向があります。グラフ問題については、分かったところから数値を書き入れるようにし、場合によっては自分で理解しやすくするために、与えられたグラフ以外に他の図などを描いたりすると良いでしょう。

2020年度入試 算数 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2		○			
	3		○			
2	1	○				
	2			○		
	3				○	
	4		○			
	5		○			
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			◎
		エ	○			◎
		オ			○	
	2		○			◎
4	1		○			
	2				○	
	3		○			
5	1	○				
	2			○		◎
	3			○		
	4				○	◎

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1	○					
	2	○					
	3	○					
2	1	○					
	2	○					
	3	○					
	4		○			◎	
	5	○					
	6		○			◎	
3	1	ア	○				
		イ	○				
		ウ	○				
		エ		○			
		オ	○				
	2	○					
4	1	○					
	2	○					
	3				○	◎	
5	1	○					
	2		○			◎	
	3			○			
	4				○	◎	

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2		○			
	3		○			
2	1	○				
	2		○			
	3		○			
	4		○			
	5			○		◎
	6			○		
3	1	ア	○			
		イ		○		
		ウ	○			
		エ	○			
		オ	○			
	2		○			
4	1	○				
	2				○	
	3			○		◎
5	1			○		◎
	2			○		◎
	3			○		◎
	4				○	

大問別	1	71.4%
	2	44.6%
	3	57.9%
	4	46.5%
	5	48.4%
総合	52.8%	

大問別	1	88.3%
	2	82.5%
	3	87.3%
	4	65.5%
	5	51.8%
総合	76.7%	

大問別	1	71.0%
	2	61.5%
	3	79.6%
	4	40.5%
	5	31.5%
総合	59.4%	

< 社会 >

1. 2020年度の問題分析

①推薦入試

社会と理科合わせて50分、配点は各50点満点です。各問のテーマは直前の説明会で伝えました。

【地理】NHK大河ドラマの主人公にちなんだ事績をリード文として出題しました。特に差がついたのは、現在の日本のエネルギーの状況についての正誤問題、熊本市とほぼ同じ規模の人口を持つ都市を選ぶ問題、熊本県の旧国名を選ぶ問題を問うものでした。

【歴史】日本の軍事史について出題しました。内乱に関係した人物や場所を地図から選ぶ問題、日本と東アジアの外交史についての問題、時代順に並び替える問題なので差が激しく現れました。

【公民】私たちの生活と政治にかかわりについて出題しました。行政機関や社会保障制度の名称の問題、間接税をリード文の中から選ぶ問題、消費税の特徴を選ぶ問題で差がつく傾向がありました。

総じて、正確に語句を書けるかどうかで、大きく差がついています。また、単純に語句を答えるにしても、間違えている人は、問題文をよく読んで何を答えればよいのかを判断する力が低いようです。

②第1回入試

第1回・第2回入試ともに、30分間で配点は60点満点です。

【地理】葛飾北斎の『富嶽三十六景』に描かれている土地をめぐるフィールドワーク行った結果についてをリード文として出題しました。その中で工業地帯・工業地域の製造品出荷額のグラフを読み取る問題、箱根を通る街道を五街道から選ぶ問題、伝統工芸品を選ぶ問題などで正答率に差がつかしました。

【歴史】文化史からその時代その時代の事象を問う問題を出題しました。日本にまだ文字が伝わっていなかった時代に日本のことを知る史料を選ぶ問題、元禄時代の作家井原西鶴の作品を選ぶ問題、日中戦争中に制定された法律を答える問題などで大きく差がつかしました。

【公民】平成時代におきた出来事や法律・制度について、年表を見て答える問題でした。特に天皇の国事行為についての問題、北陸新幹線が東京と結ばれている都市を答える問題(地理的要素が問われた)、憲法改正の手順を問う問題などで正答率の差が出ました。

いずれの分野も、比較的オーソドックスな出題で差がついています。テーマを念頭に置いて学習してもらっているのはもちろんですが、やはり、基本的な知識・理解をどれだけ身につけているかが明暗を分けたようです。

③第2回入試

第2回入試は、テーマを事前に公開しません。

【地理】平成時代に起きた自然災害や起きた場所・地名に絡んで出題し、基本的な知識を広く問いました。ほとんどの問題で、正答率に大きく差がつかみませんでした。三宅島が所属する都道府県名を問う問題では、正答率に大きな差が出ました。

【歴史】日本に存在する「世界遺産」に絡んで出題しました。『富嶽三十六景』の作者と新しい一万円札の肖像人物を問う問題では、推薦入試から受験していた受験生の正答率が高かったようです。逆に、新しい一万円札の肖像人物の正答率は低かったようです。問題も、オーソドックスなものがほとんどでしたが、ほとんどの問題で正答率に差がついています。

【公民】日本の政治組織、中央政府と地方公共団体について出題しました。こちらも、ほとんどの問題で正答率に差がついています。

いずれの分野も、基本的な知識を落とさずに、オーソドックスな問題を確実にとった人が、合格をつかんでいます。

2. 2021年度入試の傾向と対策

推薦入試、第1回・第2回のいずれの入試も「地理」「歴史」「公民」の3つの分野から出題します。推薦入試は地理・歴史合わせて35点前後、公民は15点前後の予定です。第1回・第2回入試は地理・歴史がそれぞれ20~25点、公民は15点前後の予定です。大問と出題分野はおおよそ対応しますが、昨年の出題を見ていただいても分かるように、あえて分野横断的な事項を問うこともあります。このような出題は、積極的に行っていきたくと思います。また、分野を問わず、時事問題的要素を含む出題も行います。

難易度については、第1回・第2回に比べて、推薦入試は基礎的な問題を多く出題します。また、いずれの入試でも簡単に説明してもら論述問題を出题することがあります。問いに対する答えを的確に文章で表現できるように練習しておいてください。

なお、地名・人名・事件名などの用語を答える場合は、必ず漢字で解答してください。誤字は言うまでもなく、ひらがなも原則として得点にはなりません。そのため普段からきちんと漢字で書く習慣を身につけてください。

例年、ただ知識を問う問題や、説明会で解説したテーマそのままの問題については正答率が高く、ここは合格のためには落とせない部分となります。また、どの入試でも時事問題に関する出題の正答率が高く、よくチェックしていることがうかがえました。差がつくのは、時代や出来事についての理解を問う問題(さらにそれを説明する記述問題)、表・グラフ・資料を読み解く問題、問題文をよく読み「何を聞かれているのか」把握する問題、時代の並び替え問題、歴史分野での日本の国際関係に関わる問題、そして漢字の正確さです。こういった問題をどれだけ解くことができるかが、合否を分けます。特に、このところの変化として、漢字をきちんと書ける人とそうでない人がはっきりと分かれるようになってきました。漢字を正確に書く人は、その他の問題の正答率も高く、漢字が不正確な人は、その他の問題も解けていません。丁寧に学習する姿勢が、それだけ重要だということです。

2020年度入試 社会 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点が異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1	①	○				
		②		○			
		③		○			
	2			○			
	3		○				
	4	①		○			
		②		○			
	5	○					
6			○		◎		
7			○				
8	①		○				
	②			○			
2	1			○			
	2		○				
	3	○					
	4			○		◎	
	5			○			
	6			○			
	7			○		◎	
	8		○				
	9			○			
	10			○			
	11			○			
	12			○			
3	1			○		◎	
	2			○			
	3	あ			○		
		い			○		
	4			○			
	5			○			
	6			○			
	7			○			
	8		○			◎	
9		○					

大問別	1	65.4%
	2	47.2%
	3	27.6%
総合		47.9%

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1		○				
	2	○					
	3	①		○			
		②		○			
	4		○			◎	
	5	○					
	6	①			○		
		②		○			
	7		○			◎	
	8	①	○				
②		○					
③			○				
④			○				
9		○			◎		
10			○				
2	1			○			
	2			○			
	3			○			
	4	あ	○				
		い		○			
		う			○		
	5		○			◎	
	6		○				
7	①			○			
	②			○			
8			○				
3	1				○		
	2		○			◎	
	3				○		
	4	○					
	5	○					
	6		○				
4	1		○				
	2		○				
	3	① i	○				
		ii		○			
	②		○				
	4	○					
	5			○			
	6				○		
	7	①			○		
		②			○		
	8			○			
9	①		○				
	②	○					
10			○				
11			○				

大問別	1	67.8%
	2	46.4%
	3	50.2%
	4	57.1%
総合		57.1%

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1		○				
	2	○					
	3			○			
	4	①		○			
		②				○	
	5				○		
	6			○		◎	
	7				○		
	8	①		○			
		②		○			
	9	○					
	10			○			
11	あ		○				
	い	○					
12				○			
2	1	あ			○		
		い			○	◎	
	2		○				
	3	①			○		
		②		○			
	4	①			○		
		②			○		
	5	①		○			
		②		○			
	6		○				
7				○			
8		○					
9		○					
10	①			○			
	②			○			
3	1			○			
	2		○			◎	
	3		○			◎	
	4		○				
	5		○			◎	
	6				○		
	7				○		
	8			○			
	9		○				
	10			○			
	11			○			
	12			○			

大問別	1	52.1%
	2	47.8%
	3	42.0%
総合		47.7%

< 理 科 >

1. 2020年度の問題分析

①推薦入試

問題数は大問4問です(50点満点、総問題数は25問)。**[1]**は小問集合で、生物・化学・地学・物理の順に、各2問ずつの8問を出題しました。いずれも4～5個の選択肢の中から正答を選ぶ問題でしたが、地学分野の「月の南中」に関する問題と物理分野の「滑車」の問題は、比較的即答しにくい問題であったため、正答率が低くなりました。**[2]**の生物分野は「地球環境問題」に関する内容で、全体的に正答率も高めとなり、受験生には解きやすい内容となっていたようです。**[3]**は地学分野の「地震」に関する内容で、表の関係性を使った計算に解き慣れている受験生と、普段から地震情報に関心がある受験生は高得点につながったようです。**[4]**は物理分野の「熱の伝わり方」に関する内容で、大問の中では正答率が最も低く、また合否の正答率の差が大きいのが多くなりました。

②第1回入試

出題分野は昨年と同様で問題数は大問5問です(60点満点、総問題数は29問)。**[1]**は推薦入試と同様の小問集合で、生物・化学・地学分野は選択肢から選び、物理分野は数値を答える出題でしたが、物理分野の2問は計算問題であったこともあり正答率が低く、かつ合否の正答率の差が大きくなりました。他の分野では「皆既日食」についての問題の正答率が低めになりました。**[2]**の生物分野は「植物」に関する内容で、知識問題とグラフから情報を読み取る問題の両方とも正答率は高くなりました。**[3]**の化学分野は「金属の加熱による質量変化」に関する内容で、未反応を含む質量計算の正答率が低くなり、2種類の混合物の質量計算は合否の正答率の差が大きくなりました。**[4]**の地学分野は「太陽の動き」に関する内容で、数日後の太陽の位置関係についての問題は、合否の正答率の差が大きくなりました。**[5]**の物理分野は「速さ」に関する内容で、問題文の誘導に従って解いていくタイプの問題であったため、問題の内容をしっかりと読み取ることができた受験生には比較的やさしく感じられたと思います。最後の問題は、前問までの解答も影響するため、合否の正答率の差が大きくなりました。

③第2回入試

出題形式は第1回(60点満点)と同様で、総問題数29問でした。**[1]**は他の試験と同様の小問集合で、化学分野と地学分野において名称を答える問題を出題しました。地学分野の2問と物理分野の「光」に関する内容は正答率が低くなりました。**[2]**の生物分野は、人間の「呼吸」に関する内容で、合否の正答率の差が大きい問題が多く、最後の呼吸量計算の正答率は低くなりました。**[3]**の化学分野は「二酸化炭素」に関する内容で、二酸化炭素の発生量計算は合否の正答率の差が大きくなりました。**[4]**の地学分野は「水の流れと地形」に関する内容で、知識問題のみで構成されていたこともあり比較的解きやすくなっていたと思います。**[5]**の物理分野は「物体の重心」に関する内容で、はじめの2問は正答率が高かったものの、**[II]**の机と板を用いた重心に関する問題は、誘導はありましたが、今回初めて取り組んだ受験生には難しく感じたかもしれません。

2. 2021年度入試の傾向と対策

3回の試験ともに、例年通りの傾向で作成予定です。推薦入試は大問が4問で、小問集合・生物・地学・物理分野となります。総問題数は25問前後で、易しいなものからやや難しいものまで出題する予定です。

第1回・第2回は大問が5問で、小問集合と生物・化学・地学・物理の4分野となります。総問題数は30問前後で、各回とも基礎的な知識を問う問題、計算問題、グラフや図から規則性を読み取る問題を出題する予定です。

対策としては、理科全般にわたる基礎的な知識問題を必ず出題しますので、基礎学力をしっかりとつけて下さい。また、問題文に与えられた状況から答えを導く問題、簡単に説明する問題など、知識を活用しながら答えを導く問題も出題する予定です。そのような問題にも触れておく方が良いと思います。

2020年度入試 理科 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2			○		
	3	○				
	4			○		
	5		○			
	6			○		
	7			○		
	8		○			
2	1	○				
	2	○				
	3		○			
	4	○				
	5	○				
3	1		○			
	2		○			
	3			○		
	4		○			◎
	5		○			
	6		○			
4	1	○				
	2			○		
	3			○		◎
	4		○			◎
	5			○		◎
	6		○			◎

大問別	1	56.3%
	2	82.1%
	3	61.8%
	4	54.3%
総合	62.3%	

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3	○				
	4	○				
	5	○				
	6		○			
	7			○		◎
	8			○		◎
2	1	○				
	2		○			
	3	○				
	4		○			
	5	○				
3	1	○				
	2		○			
	3	○				
	4				○	
	5		○			◎
4	1		○			
	2		○			
	3		○			
	4	○				
	5			○		
	6		○			◎
5	1		○			
	2		○			
	3	○				
	4		○			
	5		○			◎

大問別	1	71.7%
	2	75.7%
	3	62.0%
	4	61.9%
	5	71.3%
総合	68.6%	

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1		○				
	2		○				
	3		○				
	4		○				
	5			○			
	6			○			
	7		○				
	8					○	
2	1	○					
	2		○			◎	
	3	①	A	○			◎
			B	○			◎
		②	○				
	③				○		
3	1	○					
	2	○					
	3	①		○			◎
			②		○		
			③		○		◎
4	1	○					
	2		○				
	3		○				
	4			○			
	5	○					
5	1	○					
	2	○					
	3	○					
	4		○				
	5					○	

大問別	1	49.7%
	2	65.1%
	3	72.9%
	4	71.9%
	5	71.8%
総合	64.8%	

Memo

Memo